

第31期社会教育委員の会議

第6回定例会

令和7年10月10日

【1】開催日時

令和7年10月10日（金）18時30分～20時30分

【2】開催場所

教育会館3階 研修室「ぎんが」

【3】出席委員

井上委員（議長）、毛利委員、今宮委員、佐藤委員、村内委員、新海委員、豊田委員

【4】出席職員

教育委員会事務局

平原生涯学習課長、 富永社会教育係長、御園生社会教育担当係長、
山本社会教育係係員、開発社会教育係係員

【5】傍聴人

無し

【6】次第

1 第5回議事録の承認

6 議事

ミドル世代に「響く」モデル事業案の検討について

○全体での意見交換

その他

（1）次回日程について

午後 6 時30分開議

○議長 定刻になりましたので、ただいまから31期社会教育委員の会議の第6回の定例会を開催いたします。

開催に先立ちまして、本日、副議長が都合により御欠席の連絡をいただいております。あと、お二人少し遅れていらっしゃるというようなことでございます。

それでは、本日の議事日程に従い進めます。

まず、第5回議事録案の承認です。事務局より事前に送付されておりますので、委員の皆様には御確認いただいております。訂正等がありましたら、この場でお申出いただき、皆さんと確認したいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。もし何か気がついたら、事務局まで御連絡いただければと思います。では、承認ということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、この会議終了後、村内委員と新海委員に署名をしていただきますようお願いいたします。あわせて、今回の議事録の署名については、毛利委員と、遅れていらっしゃる吉田委員をお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。なお、修正の有無にかかわらず、後日、事務局より完成版が配付されるということですので、これはいつもと同じですが、どうぞよろしくお願いいたします。

机上に配布されている「わくわくサマープラン」についての説明は何かありますか。

○事務局 「わくわくサマープラン」は、7月から10月いっぱいまでの子ども向けのイベント等々が載っています。御参考までに配布いたしました。これからはウインタープランということで、冬の時期のイベント、それからいろいろなイベントをやるのに当たって、物品貸出し等の情報等々も掲載したものを作成する予定です。

○議長 これを見ると、本当にたくさんのプランがあって、充実しているということが分かるのですが、大変なエネルギーが必要ですね。

○課長 そうですね、これはうちの所管だけでつくっているのではなくて、関係している子ども関係の所管に依頼して集約したものです。

○議長 この形で、どこかに配布するのですか。

○課長 この形もありますし、区のホームページに載ってまして、今回、工夫が入っているのが、それぞれの事業に2次元コードをつけています。そこからアクセスしていただくと、もっと詳しい内容が見えるようになっております。

○議長 どのような反響があったとか、そういうものの集約や分析などはされているのでしょうか。

○事務局 部数に限りがあり、関係機関に配布させていただくのですが、再度送ってほしいという問合せはありますので、一定のニーズはあるのではないかと考えています。

○議長 大変な御苦勞をされているということはすぐ分かるのですが、興味を持っている人たちに届くのか、こうした冊子のスタイルでよいのか、別の形もあるというようなことでしたが、どうすれば、その対象とする人に届くのか。

○課長 そうですね、子どもたちが集うような児童館とか、図書館とか、あとは教育施設だけではなくて、まちづくりセンターとか、多くの区民施設には配布はしております。

○議長 そのあたり、せっかくやっぺらっぺらなので、関係者で議論をされて、成果のアピールなどもしていただければなと思っています。

○事務局 そうですね。ただ、実際にその冊子を見たとか、あるいは区のホームページを見て申し込んだというところまでのデータはないので……。

○議長 そうですよ。今期のテーマはミドル世代にどうアクセスするかという話ですので、そのほかにも、どのくらいの人が「わくわくサマープラン」に関心を持ってくださって、実際に足を運んでくれたのかというようなことが分かると、プログラムの充実や施策をどのようにしていくかに反映できると思いますので、また、御紹介いただければと思います。

よろしいですか。何かお気づきの点がありますか。

○委員 すごく世田谷区の会場を有効に使われていて、すばらしいなと思います。

○課長 ありがとうございます。

○議長 では、議事に移ります。議事(1)ミドル世代に「響く」モデル事業の検討についてです。前回の定例会で、皆さんから、こんなのはどうだろうかという案を出していただきました。その後、またメール等で御連絡し、さらに幾つか出していただきました。今日は、その案を事務局が整理して下さったのですよね。

○事務局 はい。

○議長 そして、それを大きく3つのテーマに集約されたということですので、まず、その3つのテーマ案について事務局から説明をいただいた後、皆さんから質問、御意見をいただいて、その後、順位をつけて、実施に向けた細かい検討に移りたいと思います。

では、事務局に御説明いただきます。お願いします。

○事務局 それでは、説明をさせていただきます。お手元の資料、クリップでとまっています。資料2-①から資料2-⑦までで裏面も含めて、御覧いただきたいと思います。

皆さんに配付させていただいたものは白黒ですが、このモニターはカラーです。カラー

のほうがより鮮明ですのでそちらでご確認ください。ただ、全部カラーでお渡しすると、使用しない資料もありますので、皆さんには白黒になっています。

それでは、改めて説明をさせていただきます。今、議長からもお話がありましたが、皆さん多くの案をいただきました。その中から3つの案を、結果ですが、一番多かったものが、実はFの「〇〇歳から始まる〇〇」だったのですね。

これが一番多かったのですが、具体的にその年代とか内容とかが書かれていなかったのので、我々も非常に苦労したのですが、事務局判断で「〇〇歳から始まる〇〇」はテーマの柱に位置づけて、その次に多かった3つをそこに当てはめたような形で作っているものが、先ほど御説明した①から⑦になります。

そして、「〇〇歳から始まる〇〇」の次に多かったものが、いずれも同数ですが、1つがCの「健康・メンタルケア」、続いてEの「飲食」、最後にHの「インスタグラマー講演」、この3つが同数で、2番目に多かったということになります。

では具体的に、まずはCの「健康・メンタルケア」から説明をしたいと思います。白黒の資料とモニターの両方を見ていただければと思いますが、まずは「40代からはじめるこころとからだのセルフケア」というタイトルで考えてみました。

1つは「心のケア」ということで、「更年期に起こりやすい気分変動・不安を解消しませんか？」というように、こういう形になると、女性っぽいような感じにもなりますが、作りとしてはピンクで、講師も女性ということなので、女性っぽいですが、場合によっては、今、男性にも更年期があるそうです。ですから、女性に限定してよいのか、あるいは男性も含めてとかいうことは、これから皆さんで検討していただきたいと思いますが、「心のケア」、それから「体のケア」ということで、「骨粗鬆症・筋肉減少への備え、その場でできるストレッチ等」の内容となっています。

そして、もう一つが「ライフスタイル改善」です。「睡眠の質を高める習慣、食生活の工夫等」ということを盛り込んで、具体的に講師も挙げていますが、特に40代の女性20名、参加費を500円ぐらい取って、お茶とかお菓子つきでやってみたらどうかと考えてみました。

続いて、資料2-②です。こちらは「50歳から始める、世田谷歴史巡り」とし、一見歴史物という感じですが、「歩いて出会う、世田谷の歴史と自分の健康」ということで、世田谷の歴史スポットを巡りながら、ウォーキングしながら健康にもなりましょうという目的になっています。それから途中でストレッチとか健康ミニ講座のようなものを行ったら面白いのではないかということで、あえて50歳からで、30代、40代はもしかしたらなかなか

参加しにくいかもしれませんが、それから、これは年齢を入れないと、多分高齢者の方たちが殺到する可能性もあるので、50歳ぐらいからということで入れてみました。この辺も、年齢も含めて御検討いただければと思います。

ウォーキングということもあって、定員15名ぐらいにしております。歩くコースとしては、豪徳寺から松陰神社まで、約3キロ、90分ぐらいで行けるだろうと想定しています。

続いて裏面、資料2-③です。「カラダが硬くても大丈夫！ 40歳からはじめるストレッチ」ということで、「肩こり、腰痛が気になる」、「寝ても疲れが取れない」とか、「運動は苦手だけど何かはじめたい」、そういう人たちを対象にして、特に女性だけではなくて、男性のストレッチしているところも含めて、こういうものだと大体女性が多くなるかなと思いがちですが、男性も含めて参加されてもよいのかなということで、大体1人の講師が見るのも20名ぐらいが適当ではないかということで20名、応募多数の場合は抽選とし、会費500円ぐらい取って、お茶つきとか、その後、交流タイムなどがあっても面白いのではないかと考えています。

以上が「健康・メンタルケア」です。こちらは、本当は一つに絞りたかったのですが、なかなか事務局でも、どれがよいかと絞り込むことができなかったので、ぜひ皆さんの御意見も聞きながら決めていただければと思っております。

続いて、資料2-④です。こちら④から⑥まで、「飲食」なのですが、これも一つに絞れなかったということで、3案提示します。

1つは「三十歳からはじめる日本酒講座 ～初心者のためのペアリング入門～」です。ペアリング入門って、最初私もペアリングって何だと思ったのですが、左側に「日本酒とおつまみのペアリング体験付き！」ということで、日本酒に合ったおつまみ、こういうのをペアリングしながら、日本酒の選び方とか、酒蔵さんからいろいろな話を聞きながら、試飲つきですね、そういうこともやっても面白いのではないかと考えて、これまで役所があまり手を出してこなかったようなところになってくるかと思っています。

続いて資料2-⑤で、「50歳から始める、大人のための“おうちバル”研究会」、ちょっと大人感、高級感が出ているようなものになっていますが、カラーで見ると、今までにはない、民間がやりそうな感じのものになっています。「地元食材で」ということで、世田谷で取れるもので「ヘルシーに楽しむ、大人のための新しい趣味時間」などという副題がありますが、「簡単&おしゃれなおつまみづくりワークショップ」とし、一見これ、ワインがメインかなと思いがちですが、おつまみづくりワークショップがメインで、そのおつまみに合うワインと合わせながらということで考えてみました。

参加費6000円ということで、ちょっと高いかなということもあるのですが、前回もお話ししたと思うのですが、飲食などで魚のさばき方などだと、参加費1万円でも、割と人数が殺到するということがあったりするので、あえて高額設定もしてあります。ぜひこちら辺も含めて御検討いただければと思います。

そして飲食最後で2-⑥になります、裏面です。「—大人の教養— 飲むだけじゃ、もったいない！ 一杯のビールに知性を注ぐ」ということで、リード文は「日々の忙しさに追われながらも、ふと訪れる週末の静けさ。そんなひとときに、ただ飲むだけのビールから一歩踏み出しませんか」とし、「今こそ“味わえる人”へのステップを」ということで、「大人の教養としてのビール、はじめてみませんか？」という誘い文句で考えました。これも具体的に講師の方もいらっしゃいますが、「ミドル世代の方優先（30代から60代）」と絞っています。

そしてビール、試飲だったら「つまみ付き」で1000円ぐらい、定員も20名ぐらいで、「教養は、グラスの中にも宿る」などというタイトルで呼びかけたらどうだろうと考えました。

そして最後、「Instagram講座」です。「40代から始める、働く人のためのInstagram講座」、こちらは、もう特にミドルの方たちは、ある一定のSNSをやっているのではないかと、今さらインスタグラムとはということよりは、実際に「実務に活かすInstagramの使い方」ということで絞ったほうがよいのではないかとというようなことで、「40代から始める、働く人のためのInstagram講座」というタイトルを考えました。

対象は「40代～働く世代の方」と言っても初心者歓迎で、定員が10名ということで若干少なくなりますが、具体的に指導される人が1人だと、ある程度少ない人数のほうがやりやすいのではないかとということです。

具体的な内容は「Instagramの基本と特徴」と。それから、メインになるのが「仕事や地域活動に活かす投稿のコツ」、「成功事例の紹介」、こんなことで「実践ワーク」もしながら、少しグループで交流などもできたらよいのではないかなということ考えました。

以上、全部で7つの案になりますが、できれば1つだけの案ではなく、第1から第3ぐらいまでの案を決めていただいて、場合によっては講師とか会場の都合で、1つだけだと、できなくなる可能性もなくはないので、第3希望まで挙げていただいて、これからは、本日はその第1希望から具体的に、例えばこのInstagram講座ということに決まりましたら、レイアウトとか、表現方法とか、色合いとか、あるいは参加費とか、そういうところを具体的に話し合っただいただければと思っています。

そんな進め方でよろしいのかどうかも含めて、皆さんでお諮りいただければと思います。

よろしくをお願いします。

○議長 3つのテーマに即して、全部で7つの案を考えていただき、御説明いただきました。何か御質問ありますでしょうか。私からは、従来の、いかにも教育委員会の企画です、という感じではなくて、なるべく新しい感覚で考えてみてくださいというお願いはしましたが、内容について何かを言っているわけではございません。何か質問はありますか。

案の中で実名が出てきたものがあったりしますが、これは実在している人なのですね。

○事務局 そうです。

○議長 それをたまたま挙げられたのですか。

○事務局 はい。

○議長 その方たちに何か接点を持っているわけではないのですね。

○事務局 ではないです。

○議長 ということだそうです。

○委員 募集のときのミドル世代というところで、シングルという言葉、シングルでなくていいのですか。

○事務局 その辺も含めて、ぜひ御検討いただきたいです。はっきりミドル世代のシングルというような形で対象を限定したほうがよいのか、あるいはシングルではない、例えば30から60代と限定したほうがよいのか、ぜひその辺も含めて御検討いただければと思います。

これまでの話の中では、シングルの方を中心というところもあったと思うのですね。地域に関わる方は、お子さんがいればPTAを出発として地域と関わることはあると思うのですが、なかなかシングルの方というと、地域に関わる接点がそもそもないのではないかとということもあったので、そういう方たちを中心に話し合ってきたということもあるのですが、シングル限定にした方がよいのかどうか。いかがでしょうか。

○議長 限定できますか。

○委員 逆に差別になるのではないかな。

○事務局 そうですね、そういうところも、何でシングルなのかという……。

○議長 歓迎ぐらいだったらまだしも、「シングル限定で、何でこういうことをやるの？」となる気がしますけれどもね。

○事務局 例えば婚活のような限定、ある意味、もうシングルでないといけませんというようなものに対しては、特に問題はないかもしれないですね。

○議長 委員、いかがですか、今、質問の意図があったと思いますが……。

○委員 シングルの人がたくさん集まるのだろうなと思わせた方が、シングルの人は出やすいと思ったからです。

○事務局 ですので、事務局としても、例えば最初の「こころとからだのセルフケア」、40代の女性とか、何十代から何十代までとか、あるいは優先とかいうようにはしているのですが、具体的にシングル限定というような形ではうたってはいいないです。何十歳から始めるとかいうことは言っていますが、ただ、上限も決めてはいいないということです

本日、委員は欠席ということになりました。

○議長 署名の方を替えないといけませんね。

○事務局 委員に記録の署名、次回になりますが……。

○委員 ああ、はい、署名するんですか。

○事務局 はい。

○委員 こういうイベントの参加率や参加度合いはどうなんですかね。この40代というテーマだったり、50代だったりとかいうことは1つのキーワードにはなると思うのですが、僕のイメージは、行政、世田谷区がこういうイベントをやりますよと言ったときに、暇な60代以上の、要するに働いていない高齢者がいっぱい来るみたいなイメージはあるのですが、30代、40代が来るかと言われると、その告知の仕方だとか、そういうものにもよると思うのですが、なかなか引かからないとか、来ないのではないかなという気がするのですが、どうなんですかね。

○事務局 ある程度年代を絞ったり、それから告知の仕方、タイトルとか、リード文とか、その辺で随分変わってくるのだろうなと。もう一つは、特にSNSを通じて発信していくということかなと思うのですが、そうでないと、ものによっては高齢者の方たちが集まる可能性はあると思います。

○委員 だから、その辺は、結局応募してきた人たちを見て、抽選だったり、こちらで選べばよいということだと思ってしまうのですが、選ぶほど来るのですかねみたいな……。

○事務局 分かりません。なので、その具体的な内容をぜひ皆さんで話し合っ、決めていただきたいのです。

そして、できれば今日、第1希望だけでも、ある程度具体的に検討できれば、即講師交渉に当たったり、会場の確保ですね。例えば、飲食のものと、体を動かすものと言うと、同じ場所でできるかどうかもありますので。

○委員 この資料を見て、ぱっと思ったことは、具体的にパンフレットの形までつくって、かなり本気度を感じるなと思ったので……。

○事務局 ありがとうございます。

○委員 その今の、どれだけの人が集まるかとか、「刺さる」かどうかみたいなことは、「やってみないと分からないじゃん」という気もするんですよ。

○事務局 そうですね。

○委員 なので、7つあるのですが、どれだけ負荷がかかるかという問題もあると思うのですが、全部やってみればという気がします。

○事務局 予算的に全部ということは、時間的にもなかなか難しいので、まずは、事務局としても、今回、なかなかやってこなかった対象を相手に、思い切っているいろいろなものやってみようと思っていますので、場合によっては、盛況ではない、定員に満たない可能性もあったり、ミドル世代以外の方たちの申込みが多いという場合もあるかもしれないのですが、ぜひその辺も含めて検証できればいいなとは思っています。

○委員 私は「シングルライフを楽しむあなたへ」みたいなキャッチフレーズで……。

○事務局 ああ、なるほど。

○委員 そうすれば、年代はどこでもいいのではないかと考えているんですね、30代でも40代でも50代でも。でも、そのシングルを楽しんでいる人たちが、結びつきが少ないとしたら、そこに絞っていくほうがよいような気がしています。

○議長 例えば、「大人のための“おうちバル”研究会」、シングルライフ、あなたのためにみたいな……。

○委員 そうそう、そうです、そうです。

○議長 キャッチーなものを入れたらいかがでしょうか、という御意見と受け止めたのですが。もし、それで集まらなければ、集まらないことがわかった、ということも一つの成果なのかもしれないなと思うんですが……。

○事務局 実施は私ども事務局でさせていただくのですが、募集チラシの企画等々は、ぜひ皆さんにやっていただければと思います。

残念ながら委員も欠席だそうです。

○委員 シングルの方へと言うとシングルの方限定になってしまうから、言葉の問題かなと思って、だからシングルの方も含めてみたいな意味ですよ、きっと。シングルの方も歓迎とか、ちょっと広がりを持たせる文章のほうがいいのじゃないかな。

でも、シングルというのは、昨年から話題が続いていらっしゃるの、外さないほうがよいのじゃないかな。どうなんですか。世田谷区のシングルの方、その11万人をターゲットにしているわけですよ。

○事務局　そうですね。ただ、今の段階は、シングルを入れるか、入れないかというところもそうですが、まずはどのアイデアがよいかということを決めていただきながら、そこで、例えば、まず第1希望はこれだよねというものを決めていただければ、それに対して、どういう表現がよいかというような流れのほうがよいのかなという気はしているのですが、いかがでしょうか。

今日初めて見たということで、なかなか絞り込むことも大変かなと。あるいは、もうそもそも、「いや、こんなのはもう既にやっているから、もっといいアイデアを」と言われてしまうと、また困ってしまうのですが、「だから区役所なんだ」というようなお叱りもいただくかもしれませんが、若い世代、20代から50代の職員が一生懸命考えた案ですので、吟味していただければと思います。

○議長　そもそも、事務局の皆さんがこうした企画を考えたねらいというか目標は、教育委員会は子どものいらっしゃるお父さん、お母さんには、これまでもアクセスができた。でも、それ以外の世代の人にはうまくアクセスができていない。地域に関わる政策について考えると、そうしたアクセスできなかった人たちにも何らかのアプローチが必要であるけれども、アプローチの仕方がわからないので、とにかく何かをやってみよう。そして、そうした企画に来てくださった人たちがどういう人で、どんなことに興味を持っているのか。1つのサンプルとして、参加してくださった方たちにできる範囲で、どんなことに興味があるとか、どんなライフスタイルなのか、アンケートなのか、感想を聞いてみるのかわかりませんが、今後につながるような何かをしたいということですね。

例えば、「こころとからだのセルフケア」であっても、「歴史巡り」や「日本酒講座」であっても、「日本酒講座」をやることそのものが目的と言うよりは、どうすれば、ターゲットとしている人たちに届くか、その人たちは何を求めているのかということを考えていく、ということです。

やってみたら、全然駄目だったということもあるかもしれないけれど、もし、たくさん応募があれば、委員が言われたように、ある程度、シングルの方を集めていく、ということもできるかもしれません。

○委員　よろしいですか。本当にありがとうございます。今、区の職員、20代から50代の方が知恵を絞ってと聞いたのですが、すごいですね。それで、資料2-①から③と資料2-⑦は、世田谷区教育委員会がやってもしかりだろうと、普通に、こういうことは世田谷区教育委員会がやるだろうと。

ただ、この資料2-④から⑥は、世田谷区教育委員会でアルコールというのは、すごい

インパクトあると思うんですね。絶対に考えられないではないですか。

子どもたち、基本的には未成年、例えばのげ青とかアップスは、三十幾つまではターゲットになりますが、教育委員会と言うと、どうしてもそういう学生世代、10代のというか、ここの部署でアルコールを出すということは、それはミドル世代というか、世田谷全体の人たちが驚いてしまうのではないかと、もうミドル世代を飛び越えてしまうのではないかと。

となると、こういうのはインパクトがある、面白いとなると、興味を示すのではないかなという私の意見として、ちょっと発言させていただきました。

○議長 最初のものより、後のものをやってみたらよいのでは、という御意見ですか。

○委員 目を引くのではないかと。

例えば資料2-①から②とか資料2-⑦は、もう世田谷区教育委員会と書いてあっても普通だと思うんですよ。生涯学習課がいつもやっているような内容ではないかと。これを例えば赤にしようが、いろいろな色をつけたとしてもというインパクトなんですけど、この2-④から⑥はとてつもない、教育委員会ともしっかり大きく書いたほうがよいのではないかと、人が見ると、今は活字離れですが、活字でこういうチラシが入ったときに、まず主催がどこだということは大きく出したほうが、多分取ると思うんですよ。「面白い、何をやっているのだろう、お酒？ 何で教育委員会が」と。それから入ると、ミドル世代も入ってくるのではないかと、この案はすごいなというイメージを浮かばせていただきました。

私は子どものときからお酒は飲んでいないのですが、子どものときから飲んでいたというお父さんだという人もいますが……。

○委員 私は、むしろお酒は外してよいのではないかと考えています。ミドル世代の人って、本当に飲まないし、飲まなくても平気——飲めと言われれば、付き合いで飲むことはするけれども、別にそんなになくても平気という人は、私の周りではすごく多くて、それよりも、何かお料理が作れたり、ちょっとすてきな講師がお料理を教えてくれるみたいな講座のほうが参加しやすいような気がします。

ビールにつられて来る人は、それなりのそういう人だよなと思ってしまうんですよ、応募するときに。そういう人が集まる会か、酒好きの人が集まる会かと。そういうイメージはないほうがいいなと思います。

○議長 ペアリングであれば、ノンアルコールの飲物も用意すれば、少しイメージは変わりますか。

○委員 会場に来たときにビールがあるのは、それはいいんです。ただ、チラシの中でアルコールが先に来てしまうと、酒好きの人が集まるというイメージになる。

○委員 そうでしょうね。

○議長 他の方は、いかがでしょうか。

○委員 僕は酒飲みなので、酒がテーマになっていると、つられて行ってしまうなという側ですが、今は、でも、おっしゃったように、最近の若者は酒を飲まない人が多いので、お酒につられて来るといふよりか、ノウハウ系だったり、こういう有名なインスタグラマーが来るとか、こういう著名人が来るようなのとか、こういうノウハウを提供しますよみたいなほうがよいかなという気がしますが、それは結局、今思ったのは、年代によるというか、僕のような年寄り側は、酒につられるかもしれないけれども、若者はそれにつられるかなと言われると……。

でも、僕はこの会で何回も申し上げているように、お酒が入ったときのコミュニケーションレベルは格段に上がると思っているので、会にお酒があるということはとても大事なファクターな気がするので、テーマをお酒にすると、確かにお酒を飲まない若者に「刺さる」と言われると、微妙だなという気はしますが……。

さっきちょっと事務局とお話ししたのですが、昨日、まち道楽という、いろいろ地域の、サントイベントだったり、お祭りを盛り上げたりという団体があって、その打ち上げに参加したんですが、めちゃめちゃ盛り上がり、でも、独身の女性とか、結婚していない、いわゆるおやじの会とは関係ないような人たちがいっぱいその団体に協力している。

それで思ったことが、飲み仲間は参加しているんですね、地域の中で。でも、何かをやって、それでみんなで飲むぞと打ち上げをやって、すごい盛り上がるのですが、思ったことは、この飲んでいる仲間というのは、何かやるぞと言ったときに一緒に苦労した仲間なわけですね。だから、より盛り上がるということなのではないかと思っていて、その構図は、おやじの会の構図ともとても似ている。

何かイベントをやって、みんなで苦労して、いろいろな手続や手配いろいろをみんなで苦労したからこそ、その後の飲み会が盛り上がるという構図はすごく似ているなと思ったんです。

でも、そこで最大の違いは、その中心になっている人たちは独身の男女なんですよ。ああ、でも、こういうことが起こるのだと思って、飲み仲間、地域の仲間を探している独身男性は結構いるのだなと感じたのが昨日の会でした。

○議長 それは一緒に何かをされたという一定程度の期間があったわけですかね、その一緒にやっていたものの。

○委員 期間というか、もう年間行事みたいにして、来週は何かの祭りに出店するとか、

そして、僕も今年行ってみたいなと思ったものは、世田谷線を借り切って、みんなサンタクロースの格好をして、その世田谷線に乗って、サンタクロースをアピールして、プレゼントをもらえない子どもたちにプレゼントを渡す、その募金をするという企画をしているのですが、それはめっちゃめっちゃ面白いなとか思って、参加してみようと思ったのですが、そのような、結局、仲間と一緒に、大義があるとか意義がある活動を自らしようとしている人たちは結構いるなと思ったという感じです。

○議長 例えば料理をすとか、何か体験的な側面があるとよいのではないかということですね。準備の期間がないので、今回は、「世田谷線を借り切って」、というところまでは厳しいでしょうが、委員が言われたことは、ただ会場に行って話を聞くよりも、制約はあっても、みんなで何かをやるようなものがあつた方がよい、と理解したのですが。

○委員 はい。

○委員 私もすごくお酒が好きで、これは面白そうかなとは思ったのですが、そもそもアルコールは有害で、百害あって一利なしと言われ、小学校の時間でも、たばことアルコールは有害だという話もしています。一見これを見ると、ちょっとした飲み会的なイメージに見えてしまう部分があつて、お酒が好きな人は、お酒を飲んで、ここまでの、お酒を学ぶまで行く方は、もしかしたら少ないのかもしれませんが。ただ時間がないので、テーマを消去法でどんどん消去して行かなければいけないのかなと思いつつ、私は、このお酒ではないほうがいいかななど思っているところです。あと、確かにお酒離れも進んでいるということはありますね。

あと、私、この前のアンケートでお伝えしたのですが、参加賞のようなものがあると、結構、参加者は来ますね。子どももそうですが、物でつるではないですが、参加賞のようなものがあると、結構いろいろなものに参加してくださる方が多かったり、特別な資格が取れるとかいうものがあると面白いなど思ったところですけどもね。

もう一つよろしいですか。

○議長 どうぞ。

○委員 あと、インスタグラムの講座とかいうのは、現に今、既にユーチューブとかSNS配信で、このような入門講座とか使い方講座はやっているの、集まって学ぶという機会はちょっと弱いかなという気がしました。既に集まる以前に、配信がかなり進んでいますので、インスタグラムだけではなく、チャットGPTの使い方や、あらゆるAIについても、ユーチューブを見れば学べてしまうので、この講座というのがあまり集まらないかなと思ってしまうところですが、すみません、以上です。

○議長 委員、いかがですか。

○委員 そうですね、地域との関わりのようなことで言うと、このワイン講座のワインなしで、地元食材で作るお料理、その後に試食するとき、お酒がちょっとありますぐらいだったらいいのかなということは、ちょっと今思っています。

あとは、この世田谷歴史巡りは、青少年委員のときに、委員、こういうのに行きましたよね。

○委員 はい。

○委員 というのもあって、今までにないものという、お酒中心でないにしても、ちょっとつまめるものがついているようなものがよいのではないかなと思っています。

○議長 そのほかはいかがでしょう。

○事務局 先ほどもお話したように、AからOまで皆さんに出していただいたものを事務局のほうで絞って、「〇〇歳から始まる〇〇」が一番多かったのですが、これも具体的なものがなかったので、これをベースにして考えたというものが、先ほど申し上げた、「健康・メンタルケア」と「飲食」、そして「インスタグラマー講演」ということなんです。

講演だと一方通行になりがちなので、今回、講座ということで提案したところなんです。もし事務局からの提案が「いや、あまり」ということであれば、もう一回検討し直すか、あるいは「健康・メンタルケア」、「飲食」、「インスタグラム講演」ということはそのままにして、その中でさらにもうちょっと違う案を出すか、どういたしましょうか。

○委員 私は、この地元の食材でお料理作りを楽しむみたいなことで、例えば、すごくおいしいものができたら、これを今度お祭に出店して、みんなで売ろうとか、そんな発展があるようなもの、これを作ったら喜ばれるよね、ホットドッグに何とかを入れたらすごくおいしいじゃない、じゃ、これでお店屋さんをやろうみたいな発展の仕方もあるのかなと思いました。

○議長 委員のイメージでは、例えば、チラシにワインの写真があると、どうしてもそこに目がいくので、もう少し、「地元食材をヘルシーに楽しむ、大人のための新しい趣味時間」が前面に来るようにして、さらに、いいお料理ができたら、ちょっとどこかのお店で売りましょうとか……。

○委員 そう、はい。

○議長 尾山台だと「ハッピーロード」という商店街があって、地元のイベントなどで出店が出たりしていますよね。そういうものに必ず出なければいけないということではないけれど、参加者たちで盛り上がったならそういうものにも参加していく、というような方向

性のイメージで、先ほど委員の言われた、ここで一つやってみて、時間があったら、第2部へと展開したり、打ち上げをしてもらう。試食するときに、飲める人は飲んでもいいし、飲まない人は飲まないという選択ができれば、という感じですかね。

委員からも、ちょっとこういう企画は、今までの教育委員会ではなかったぞ、という話があり、「新しさ」が感じられますね。「世田谷歴史巡り」が悪いわけではなくて、教育委員会がやりそうなことではあるけれども、そういうものは安定的に……。

○委員 大人の社会科見学的な感じですけどもね。

○事務局 そうですね。ここもウォーキングしながら健康になっていただいたり、途中でストレッチや健康ミニ講座とか。ちょっとあのような写真になると、なかなかイメージがつかないかもしれないのですが、場合によっては世田谷も、お寺などもありますから、例えば座禅とか、そんなこともできなくはないのかなという気はしますが……。

○委員 もしチラシのときには、あれをもうちょっと拡大できるといいですね。私も何かと何かを掛け合わせたほうがよいとお話ししたので、そのようにストレッチとか、場合によってはここに、さっきのお酒などもあってもいいのかなと思ったのですが。

○議長 座禅のようなものであれば、若い人でも、ちょっとやってみたいと思うかもしれないし、行ったところに酒蔵があれば、「あれが杉玉だね」みたいな感じでしょうか。

○委員 お酒と書かず、般若湯と言えばいいではないですか。

○委員 これだと、電車で移動ですか。

○事務局 いえいえ、ウォーキングなので……。

○委員 ああ、ウォーキングですか。私、バスツアーは1個提案したんですけどね、キャロットタワーと、他いろいろと。ウォーキングなんですね。では、健康面でもいいですよ。

○事務局 はい、「健康・メンタルケア」というジャンルから考えましたので。

○委員 なるほど。シニアとかミドルの関心事の1番は健康で、2番目がお金と言っているぐらいなので、健康は大事だと思います。

○議長 ただ、ミドルやシングルをターゲットにするのであれば、シニアにならないような要素を入れないと、うまくいかないかもれませんね。青少年委員で企画をする際は、どうでしたか。

○委員 青少年委員の研修という形で、自分たちが行ったものなので……。

○議長 そのときの皆さんの感想みたいな……。

○委員 そうですね、この歴史巡りみたいな、世田谷の古い施設を訪問というのは、地元

に住んでいても、なかなか訪れる機会がなかったのでよかったとか、青少年委員なので——すみません、会長の前であれですが、自分が担当する学校の子どもたちに「こういうのがあるよ」と紹介ができるとかいう、それはこの「わくわくサマープラン」に載っているようなことも同じですが、世田谷の地元でやる何かに参加してもらいたいとかいうことには使えたかなと思います、そもそも対象が違うので、はい。

○委員 これは、世田谷を生かしていますよね。

○委員 そうですね。

○委員 私も世田谷何とかがよいと言ったのですが、お酒だったら、世田谷に特化しない、だから、お料理とか地酒とかだったらあれですが、世田谷を生かしていけるといいですね。だから、こういう地元のものもいいのか、などと思ったりはしたのですが……。

○委員 同じウオーキングにしても、ただ歩くだけだと、別に、今度こういうものにわざわざ参加しなくても、自分でも、仲のよい人たちだけでも行けるのですが、ここに、先生がおっしゃったように、プラスアルファ何かくっつけたら、ここでしかできないようなことがあると、参加者も出てくるのかなと思います。

○議長 いかがでしょうか。

○委員 今話を聞いていて思ったのですが、世田谷って、岡本とかに結構農地があるではないですか。そこに販売所があったりするではないですか。僕はあれに結構回るので、何かないかなと思って買ったりするのですが、そういう世田谷の食材と絡めて、販売所を回って、実際にそこの農園で作っているものをベースに、みんなで歩き回って、集めて、その後にみんなでその食材を使って料理をすとかで、そうすると一緒に活動した後に料理を作って、そして酒を飲むようなものも何かワンセットでいいかなと、ちょっと今思いました。

○議長 委員が言われたことの変化型バージョンというか、それに、世田谷の食材に関する企画で、例えば、大蔵大根が栽培されているところを巡ってみるとか、商品開発につながるようなことをイメージしてみるとか、もちろん料理を作って、少しアルコールもあって、みんなで味わうということでもいいのでしょうか。

これは幾つに絞るという話でしたか。

○事務局 できれば1つだけではなくて、第3希望ぐらいまでであると、ただ、少なくとも今日、できれば1つぐらいでも決めていただければ先に進めることはできるのですが、もう1回事務局で考え直したということになれば、ちょっとまた時間をいただかなければいけないので、そうすると、ちょっと実施がなかなか難しくなってしまうので……。

○議長 これまでのお話からは、1つは「ワインの企画」が好評でしたね。それをもう少し、ワインが全面に出ないようにして、例えば、地元食材を加えて、さらには調達するところも含めたり、一緒に料理を作ったり。みんなで作って、それを食べるというところで交流が生まれたら楽しいのではないかと。飲んで、飲まなくてもいいと思うのですが、そこからさらに発展していくようなイメージが1つ出てきたように思います。

もう一つは、「世田谷の歴史巡り」というか、委員から「社会科見学」というお話がありましたが、歴史巡りだけではないのかもしれないのですが、歩くということを含め、「健康」というキーワードが出ていました。このような2つのタイプがあった気がしますがいかがでしょうか。

○委員 そうですよ。

○委員 ウォーキングのところ、どうしても年代的に、歴史巡りと言うと、ちょっと年代が上の方が集まりそうなので、いっそのこと世田谷代田の周辺、最近きれいになっているので、あの辺を歩いてみようとかというのもよいのではないかとちょっと思います。

○議長 「きれいになった」といことですが、何があるのですか。

○委員 はい。小田急線の整備、地下化に伴って、地上の線路があったところが空いたので、そこにいろいろな新しいお店がすごくたくさんできていて、土日になったりすると市場が出たり、人も今すごくたくさん出ているのですが、いろいろな施設が新しくできて、家族連れとか若い人は結構行っていると思うのです。そういう人たちではない、シングルを含めたミドルの方々に、ちょっと行ってみませんかみたいなお誘いはどうかなと思いました。

○事務局 ドラマの撮影場所になっていたという……。

○委員 そうですね。

○委員 うん、結構ドラマは使っていますよね。

○委員 へえ。

○委員 私はそのとき、ちょうど世田谷代田に住んでいたんで、今まで誰もいなかった駅の周辺に、物すごく女の子が、土日になると撮影スポットとしてやってきていたので、そういうところも世田谷にあるんだよという意味で、ちょっといかがかなと思います。

○議長 うちの子どもも、下北沢に「月」を見に行った、と言っていました。

○委員 あっ、今、何とかムーン下北沢ってやっているやつですね。

○議長 インスタで知ったらしく、自分の目で見てみたいと思ったようですね。

○委員 でも、そういうのを団体で、みんなでぞろぞろ行くということを非常に嫌がると

私は思います。

○委員 ああ、それもあるかもしれません、はい。

○委員 ちょっとダサイと言うんですか。1人でインスタグラムを見ながらばばっと行って帰って来るのはよいけれども、みんなと一緒にぞろぞろ10人ぐらいで行くって、ちょっとと思われないかなと思いました。

○委員 だけど、ミドル世代のきっかけづくりとしては、多くの人間で行くというよりも、たくさんいる人口の中で、その1人でも出て、それが世田谷中で10人ぐらいのミドル世代が集まってもらえればということが一つの成果になると思うので、あまり集団行動と言うよりも、一人一人来て、仲よくなれば仲よくなってもよいのではないか、調理でも、教わっているのを見て、包丁を使って一人で、そういう感覚で呼ばざるを得ないですね。

多分、私もミドル世代で、自分が好き、家にいるのが好き、自分の一人行動が好き、それを世田谷区の行政というか世田谷区の中で呼ぼうというときですから……。

○議長 委員のご意見は、どこかを巡るときに「みんなで行くというのは、ちょっと抵抗がある」と感じるのではないか、ということですね。

○委員 はい、そうです。

○事務局 なので、最終的には集団で巡るかもしれないのですが、チラシにはそういうことはうたわないという……。

○委員 ああ、なるほど。

○議長 オリエンテーリングみたいにですか。

○事務局 そう、そうですね。

○委員 別に分散して歩けばいいだけの話で……。

○委員 分散して、二、三人でゆっくりと……。

○委員 全然そんなの、五、六人で歩きますけれども。

○事務局 そう、そうですね。そして、言ってしまいますが、ビールのあのチラシを御覧ください。これは実は私がつくったんです。それで参加費に1000円（ビール、つまみ付き）となっているのですが、最初はビールに交流ありとやったんです。そうしたら若い職員から、最初から交流とやってしまうと来ないんじゃないのと言われたんですね。それでカットしたんです。

○委員 確かに。

○事務局 けども、中では、ある程度のグループをつくって、交流するような形で進めたいとは思っているのですが…。

○委員 でも、これを見たら交流はありと思いますよね。そもそも交流したくない方はこれに食いついてこないような気もしてしまうんですけどもね。

○委員 そうでしょうね。

○委員 どうなんでしょうね、難しいですね。

○委員 うん、確かにきっかけづくりなんで……。

○議長 交流ができるかもしれないけれども、「嫌だったら、一人でもいい」というのは残しておかないと……。

○委員 一人でですか、これ、ああ、そうか。

○議長 ビール工場などを見学する時に、最後にビールの試飲があるとしても、工場の説明を聞くときは、たくさんの参加者の一人として聞いていますよね。誰かと仲よくなることもあるかもしれませんが、そうでなければ、一人でビールを飲んで帰るのではないですか。

○事務局 そうなってしまったら講演会形式になってしまうのですよね。そうすると、もう個人の学習、個人の学びになってしまうので、何十人いたとしても、前後左右の人と誰ともしゃべらずに終わってしまうと、ちょっともったいないかなという気はします。

○委員 グループ活動がいいんですよね。

○事務局 そうですね。ただ、そういうことをやっても、なるべくうたわないほうが集まりやすいのかなと。

○議長 何はグループ活動ができますか。料理などだったら……。

○委員 私は料理がいいなと思って……。

○議長 料理はグループ活動がありますよね。

○委員 料理をグループ活動としてやるということがいいのではないかなと思って、私だったらこれはやりたいなと思います。

○議長 いろいろな食材を、例えば、こっちはグループはニンジン、別のグループはジャガイモ、というように持ってきて。

○委員 そしてシェアし合って食べると……。

○議長 ジャガイモを配ったりすれば交流のきっかけになりますし、料理を作る際に「火加減はこんなものですかね」ぐらいの話は、自然に弾むのではないですかね。

○事務局 そうすると、今日は3名の方がいらっしゃってないんですが、おおむね飲食というか、料理を作ることを中心にできたらと。そして、これだとワインがメインになりそうなので、控え目にするか、もう消してしまっ、ワインとのペアリング体験という文字

だけは入れておくのか、入れないでおくのかと言うとあれですが、料理を中心……。

○議長 写真はまだこれから調整はできるのですよね。おいしい食材とか……。

○事務局 全然できます、はい。

○委員 あと、料理研究家みたいな独身で頑張っている若い男の人とかはいますよね。

○事務局 はい、はい。

○委員 そういう人が講師に来てくれるとかと言ったら、ちょっと行きたくなるのではないのでしょうか。

○事務局 まだ講師は全然当たってはいないのですが……。

そうすると、料理を中心に、何か企画ということで、案として採用ということで……。

○委員 地元食材ですよね。

○委員 地元じゃなくて……。

○委員 砧のファーマーズセンターに行けば、朝市を大きな建物でやっていますが、上が食事、飲食できるようになっていて、下がスーパー、全部地元で取れている、砧の農家の方がそこに出しているんですけどね。

○事務局 ぜひそういう情報も教えていただいて、はい。

○委員 そこですと、もう全部そろいますから。そして、世田谷は大蔵大根を推していますから、大蔵大根を本当に……。

○事務局 地元も入れてよいのではないですか。でも、全部地元でそろえようとする、それは無理が出てくるので、そうではないものも当然あるでしょうけれども、地元のものも入ったほうが……。

○委員 でも、そこへ行けば、冬野菜から何から全て、全部そろいますよ。

○事務局 そうですね、大体12月、1月ぐらいの……。

○委員 世田谷は全部つくっていますから、ブロッコリーからカリフラワーから全て。

○議長 野菜はそろっても、肉とか魚とかは……。

○委員 肉がないか。

○議長 2つ目のタイプ「まちめぐり」についても、案としてはあってもいいかなと思います。若い世代が興味を持つような新しめの場所や動きがあるプランは考えられないでしょうか。ただ、集団でめぐるとなると、なかなか難しいですかね。

○委員 今、青少年委員の第1ブロックが、課題別研修で、三軒茶屋だけの歴史をやっていて、今度、上馬とか松陰神社を回ると言っていたではないですか。ちょっと資料を頂ければ、かなり地元の郷土資料館や、講師にして、青少年委員だけでやっているらしいんで

す、地域合同研修会ですが、この間の資料は、第1弾は結構面白い、世田谷の史跡なんです、説明をいただいたという話を聞いていますので、資料を頂けるかもしれないです。それはその場所限定ですが、三軒茶屋中心、今度は上馬、松陰神社、あの辺が中心だという話をされてきましたので。

○議長 アイデアとしてはいいかもしれないですね。歴史的な文化的なエリアだけではなくて、新しいもの、商業的なものとかはどうでしょうか。

○事務局 そうですね。

どうしても年齢層が高くなってしまふかもしれませんし、あと、まち紹介的な番組のような形だと、歴史だけではなくて、内容によっては若い世代も含めてという隠れた町のスポットのようなものがですね。

○委員 うーん。

○事務局 そういう視点であれば、つくれないことはないかもしれないですね。

○議長 委員が気になっているのは、そういうところへ、みんなでぞろぞろ行きたくないのでは、ということですね。

○事務局 ああ、そうですね、難しいですね、その辺が出てしまうと……。

例えばそういうスポットを映像で見せてと言っても、ちょっと味気ないですものね。

○委員 では、お料理を食べた後、そんなのを見ながらみんなで話したりしますか。

○事務局 もうちょっと料理のほうを詰めさせていただいてもいいですか。これなんです、例えばこれだと「50歳から始める、大人のための“おうちバル”研究会」というタイトルなんです。一つは50歳というのはどうでしょうか。

○委員 もっと若くてもいいんじゃない。

○委員 もうちょっと若いほうがいいな。

○委員 お料理の上手な男の人じゃないと結婚できないと言われるくらい、今は若い男の人たちがお料理を上手に作れるということは必須科目になっています。

○事務局 そうすると、具体的には……。

○委員 30代から。

○事務局 「30歳から始める、大人のための“おうちバル”研究会」と。

○委員 おうちバルって何になるんですか。

○委員 自分ちで結構おつまみを作るということではないですか。そういうイメージですよ。

○委員 “おうちバル”って飲みでしょう、バルってね。

○委員 うん、結構しゃれたおつまみを作れてしまいますよということですよ。

○議長 “おうちバル”という言葉には、1人で飲むと言うよりは、美味しい料理を作って、誰かに食べてもらってというようなイメージなのですね。

○事務局 そうですね。ですから、それは一緒にやった、当日集まった参加者同士ということもありますし、それを今度、事後ですね、せっかく覚えたので、誰かに振る舞いたいという気持ちになれば、またいろいろな人たちとつながるきっかけにもなると。

○委員 そうしたら、そのパーティーのときに、一品持ち寄るときにも、あなたは大丈夫みたいな気持ちになれるようなお料理が作れますよというキャッチがないですかね。

○事務局 うん、うん。パーティーでなくても、ちょっとした仲間が集まって飲食するときに……。

○委員 自分ちで……。

○事務局 手軽に時短でおいしくできるよというようなイメージのものでしょうか。

○委員 はい、はい。

○委員 カッコいいですよ、フライパンを持って、アサリの酒蒸しか何かをちゃっちゃっちゃっと作る、そういうイメージですかね、なるほど。

○事務局 では、そうすると、ここの年齢は三十ぐらいですね、「30歳から始める」と。

それから、ここも具体的に日時は書いていないのですが、大体土曜日の午後、こちらは15時から17時となっていますが、その後、参加者同士で仲よくなったら、個人的に二次会をどうぞというのもあって、5時ぐらいの終了がよいだろうということで設定しているんですね。ものによると2時間で足りるのかということもあるかもしれないですね。作って、飲食して……。

○委員 歓談するんですよ。

○委員 あっ、そうか、歓談も入るのか。

○事務局 それから、もう一つは参加費ですね。どの程度のものがよいのか。何を作るかによっても変わってくると思いますが……。

○委員 でも、おいしい牛肉の焼き方とかというのは、とても興味はあると思うので、高くてもよいのかなという気持ちはします。何か安いその辺の料理ではなくて、ちゃんとしたステーキが焼けるとか。

○委員 食はお金がかかりそうですね。現段階でも6000円で、これはワインのことも入っているでしょうけれども、果たしてこれぐらい出しても来るぐらいですかね。結構高額になると敬遠されてしまうかもしれないでしょうし、難しいところだとは思いますが。

○委員 この6000円というのは、自分が食べる分のお金ですか、それとも講師料も入ってということですか。

○事務局 講師料は別ですね。

○委員 自分が食べるだけのお金でよければ……。

○事務局 材料費とか、多少ワインとか、ソフトドリンクも含めてということですが……。

○委員 そうしたら3000円あれば……。

○委員 3000円がいいところですよ、そうしたらね。

○委員 うん、そうですね、6000円はちょっと高いな。

○委員 6000円って、すごくいいワインとか、いいお肉ですよ。

○委員 多分集まらないですね、だから、もう少し安く。

○委員 3000円でステーキが食べられたら、いいと思います。

○委員 普通の料理教室とは違うわけなので、そこが何かですよ、付加価値というか。今回はそのワインなのかどうかは分からないのですが、交流ですか。交流を付加価値にしてもいいですが、何か目的を持たれたほうがよろしいですね。

○事務局 そうですね。そして、ただ単に、例えばですが、ステーキを焼くだけだと、あっという間に終わってしまうので、多分お肉の選び方だとか、それから、例えばスーパーの1000円ぐらいのお肉でも、こんなふうにやると高級お肉に化けますよとか、いや、あるのかどうか分からないのですが……。

○委員 あります。

○事務局 そういうテクニックだとか、部位の選び方だとか、保存の仕方だとか、あるいは、そういうステーキにこういう飲物が合うのではないかとか、あるいは塩こしょうだけではなくて、こんな調味料もとか……。

○委員 では、そういうのをチラシにうたったほうがいいですよ。

○事務局 そうですね、はい。

○委員 人を集めるためにも。

○事務局 そして、できれば作るときも、本当に何百グラムを1人1枚なのか、あるいはそれをグループでシェアして食べるのか。

○委員 シェアはしないですね、あの人たちは。

○事務局 ぜひそういうところも具体的に言っていただけると、我々もイメージが湧きますので。

○委員 簡単にできるお手軽なものを何品か作るのか、それとも、そこそこのものを1品

か2品にするのか、簡単に言えば高級なものでそろえるのか、本当にお手軽で、1人でも家へ帰ってもちよっちょっちょっでできるおつまみになるというものにするかですよね。簡単料理と、そういうある程度そこそことなると、また難しくなってしまう。

○委員 でも、映えるものが大事なので……。

○委員 ああ、そうですね。そうか。予算があればシャトーブリアンか何かを持ってきて……。

○委員 僕は、違いを体験したいみたいなイメージなんですけど、だから、おいしい肉と普通のお肉、あと焼き加減とか焼き方によって味がこんなに変わるとか、だからそこで、費用の話がありましたが、そういうのは、別にそれでおなかいっぱいにならなくてもよくて、ちょっとその違いが分かればいいのではないのという気がするの、そういう違いを明らかにと。

食材が違ったら味が違うのは、そうだろうと思うけれども、同じ食材でも、焼き方とかフォローによって味が全然変わったりすると思うし、そういうちょっとした気の配り方とかによってこんなに違うんだみたいなことを、自分でやってもなかなか体験しないですよ。それを体験して、ああ、こんなに違うんだ、では、ちょっと今後焼き方に気をつけようとか、そういう気づきがあったりすると面白いかなという気がします。

今ので、あともう一つ思ったことは、地元食材という話があって、僕は野菜販売所を回ったりとかすると言いましたが、よく狩り物があるではないですか、梨狩りとかブドウ狩りとか、よく言われていますよね、要するに、なっている状態で食べるのと、普通の流通に回るものは熟す前に流通に回るから、全然味が違うみたいで、地元食材で思ったことは、その野菜狩りみたいな……。

○委員 収穫……。

○委員 そう、収穫をして、それを料理するのと、売っているものを買ってきて料理するのは、多分全然違うんじゃないみたいなことが気づきがあったり、本当に何か面白そうだなという気がします。

○議長 いろいろなアイデアが出ましたので、それらをうまくとり入れたらいかがですか。

○事務局 はい。

○議長 おなかをいっぱいにするのではなくて、実験みたいな調理をしてもいいですね。例えば、同じ大根でも産地の違うものを料理したり、インスタ映えするものを作ったり、ステーキは焼き方次第でこんなに違う、ということを経験できたりすれば、参加者同士、初対面でも、「本当だ、違うね!」「いつもどんなふうにやっていますか」みたいな話が弾

むと思います。だしを使うとしても、和風にしたり、洋風にしたり、実験的な要素があれば、「民間の料理教室とは違うよね」と評判になるかもしれませんね。そういう講師が見つかるかどうかはわかりませんが。

○事務局 そうですね。参加費も上限3000円ぐらいだったら……。

○議長 3000円くらいは、食材費込みであれば大丈夫ではないですか。6000円だと、いいものが出てこないと「ちょっとなあ」と思うでしょうけれど。

○事務局 ちょっと高級っぽいイメージでつくっていますので……。

○議長 一般的には、高級な食材の方がおいしいのでしょうかけれども、料理の仕方によっては、普通の人には分からないですからね。

○事務局 そうですね。

○議長 美味しいものができたら、一人で食べるだけでなく、誰かに振る舞いたくなるということもあるでしょう。料理と一緒にお酒を飲んだほうがおいしいと思う人もいますし、体質的にお酒を飲めない人やソバキュリアンもいらっしゃるでしょうから、そうしたことも考えないといけませんね。

○委員 作るほうも、誰かのために作るというのだったらやりますが、自分だけのためだったら、もしかしたら手を抜いてしまうかもしれない。

○議長 作った料理をどこかで売るとか、商品企画まではなかなかいかないでしょうけれども、そんな広がりがあればいいですね、というご意見もありましたので、そうした方向性もご検討ください。

○事務局 承知しました。

○議長 参加者同士の交流があるようなものもいいですよ。

○委員 そこが狙いですよね。

○議長 無理やり交流するのではなく、自然と「おいしいね」とか、「どうしてます？」みたいになれば……。

○事務局 グループで協力しながら一緒に作るとか、試食するとき少しグループでやるとか、そういうものはイメージしてやっていきたいなということはあるですね。

○委員 学校の家庭科室でやるなどということも懐かしくてよいかもしれません。

○議長 学校の家庭科室であれば、教育委員会としてもやり易いのでは。

○事務局 そうですね。

○委員 ちょっと高級感とは外れてしまうかもしれませんが……。

○事務局 はい、いろいろ小・中学校の関係者がいらっしゃいますので、心強いと思いま

す。

○議長 家庭科室でなくてもいいでしょうけれども、料理できる施設でないと駄目ですよ
ね。

○事務局 そうですね。

○委員 でも、グループに分かれてするとなると、キッチンが幾つもあるほうが……。

○事務局 そうですね。

○議長 家庭科室であれば、講師が料理している時に手元が映るとか、そういう設備があ
るのではないですか。

○委員 あります、中学校はそうになっています。

○議長 そうですよ。依頼する講師のイメージはありますか。

○事務局 いいえ、これから探します。

○委員 いつ頃の予定でしたっけ、12月、11月ですか。

○事務局 早くても12月ですね。今10月なので、場合によっては1月、1月中までには何
とかやりたいなどは思っているんですね。

○議長 料理番組で人気のユーチューバーは来てくれないでしょうかね。

○事務局 そうですね。

○委員 高いよね。

○委員 高いです。

○委員 でも、自分がレストランをしているところのシェフさんは、いっぱいユーチュー
ブに上げていますが、そのお店が休みのときに、教育委員会に協力してと言ったら、して
くれるような気がします。

○委員 土曜日だと稼ぎどきですよ。

○事務局 そうですね、お店を閉じるのと、ここに来るのと、どっちがいいかという……。

○委員 休みの日だったら……。

○事務局 ただ、土日にお休みはあまり……。

○委員 稼ぎどきですよ。

○委員 いや、でも、都内のほうに行くと、日曜は休んでいる。

○委員 ビジネスマン対象の店だったら、土日はお休みかもしれないですね。

○事務局 ああ、ビジネス街とかだったらそうですね。

○委員 お休みでもギャラは発生するかと思うので、報償費10万円とかするときがあるの
で、一気に予算がなくなってしまうですよ。

- 委員 でも、店の宣伝がちょっと入れば、大丈夫ではないですか。
- 委員 例えば世田谷区の給食センターの方に作っていただくというのは一番手っ取り早いんじゃないですかね。
- 事務局 ただ、このような、今まで出たような応用が利くかどうかは……。
- 委員 ただ、しゃべれないと思いますよ。そういう方でないと、エンターテインメントはできないと思うので、でも、そういう方のほうが、ギャラをもらうだけの価値もあると思うんですよね。
- 委員 ああ、そうですね。
- 議長 例えば、料理番組のユーチューブだと、私は三國さんとか、コウケンテツさんとか、リュウジさんなどはよくみます。でも、そうした方々はなかなか呼べないですよ。
- 事務局 そうですね。
- 議長 でも、三國さんが出身地の教育委員会が主催する食育講演会で講師をされたというニュースを読んだ覚えがあります。
- 事務局 はい。
- 議長 なので、世田谷になにか縁のある方であれば、可能性はあるかもしれませんね。
- 事務局 教え子でそういう……。
- 委員 シェフになった……。
- 委員 いないよな。
- 事務局 では、そういう今出た案で、また新たに企画を提案しますが、あと何か気になるところとかはありますか、特に料理のほうで。
- と言っても、実際にその新たな案がないと、なかなか難しいかもしれないので、まず取りあえずは事務局で今出た案を盛り込んで、新たな形につくってみたいと思います。そして、事前に議長とも相談をしながら、出来上がったら、また皆さんに御報告しますので、それで一定期間、新たなその提案に対していろいろ御意見をメール等でいただいて、また修正をして、決めていければいいなど。
- 議長 今回のイベントはいつぐらいに実施するのですか。
- 事務局 1月までには、ですから、早々に案を御提案して、10月中には決定したいと思っていますので……。
- 委員 このスケジュール感ではね。
- 委員 講師の方も予定がありますものね。
- 議長 10月中に案を決定して、実施するのは年内ですか、1月ですか。

○事務局 早ければ12月、遅ければ1月ぐらいまでには何とか、場合によってはずれ込む可能性もありますが、それは物理的に場所が取れないとか、あるいは講師の日程ですね。

○委員 参加する人も、12月の後半だと、もう忙しいですよ。

○事務局 そうですね。

○委員 忘年会だよ。

○委員 ちょうどいいかも……。

○委員 でも、12月はパーティーシーズンではありますよね。

○委員 ああ、なるほどね。

○事務局 だから、やるのだったらもっと前、はい。

○委員 早くということですね。

○議長 食に関わる人は忙しくなってしまいますね。

○事務局 そうですね。

○議長 寒くなると、外出するのも億劫になってしまうし……。

○委員 せっかく内容もよいものなので、周知がすごく大事だと思うので、周知期間もしっかりと取っていただいて……。

○事務局 そうですね。

○委員 どこに周知されるかも計画的にされたほうがよいかと思います、内容がよくても人が知らなかったではもったいないので。

○課長 ちょっと1点だけ、募集でシングルの方を限定するというところが、差別にならないような形で、そこはターゲットにはしたいのですが、どう表現できるかを、ちょっともう一回事務局で考えさせていただきたいと思います。

○事務局 ちょっと今、思いつきですが、例えば一人鍋の作り方とかと言ったら、シングルっぽいですかね。

○課長 そうですね。

○委員 今、一人キャンプとかはよく聞きますものね、ソロキャンプとか。

○課長 ああ、ソロ、そうですね。

○事務局 今、1人用の小さい鍋なども売ってたり。

○委員 ありますね。

○事務局 それか、そこまでこだわらなくてもいいのか。

○委員 さっきも言いましたが、シングルの方と言ってしまうとシングルの方限定に捉えられてしまうし、それを入れないと、皆さん、広がるので、シングルの方歓迎と言って、

シングルの方にちょっとした特典がつくようなのがあるといいのかなと思って。友達ができるよとか、そういうことも手かなと思ったりするんですが、そうすると呼びかけられるかなと一瞬思ったんですけれどもね。

○事務局 これは難しいんですね。シングルの方歓迎と言うと、なぜ優先なのかとか、何で歓迎なのかという内容に……。

○委員 シングルの方限定のイベントではないですね。

○事務局 そうなんです。

○委員 だから難しいんですね。

○委員 それはなかなかできないですね。

○委員 シングルの方も歓迎というのは難しいですね、言葉遊びになってしまうね。

○事務局 そうなんです。

○委員 でも、シングルライフを歓迎しているような言葉だったらいいのではないですか。ビバ・シングルライフとか、シングルってすてきだよ、イメージがいいよねと。

○課長 そこはいろいろな考え方の方がいらっしゃるところで、そういう生き方もありますよねというところが、うまく説明できればいいのですが……。

○議長 「一人鍋」というのは、ちょっと気にはなりますね。

○事務局 そうですね。

○議長 ただ、みんなで作ってみんなで食べて・・というイメージで話してきているから、「一人鍋」だと一人で完結してしまう感じがするので、どうですかね。

○事務局 そうですね、もし限定っぽくするのであれば一人鍋というような形のほうが、まだ分かりやすいかなと思ったのですが、それ以上具体的にすると、なぜシングルなのかというところが、なかなか難しいかなと。

○委員 説明がつかないですよ。

○委員 でも、それはシングルが増えているからですよ。

○議長 仲間と一緒にバル・メニューを作ってもいいし、ソロキャンプでも楽しめるみたいな、そういう2つの要素が入っていればよいかなという気はちょっとしたのですが、ソロキャンプだけにするとそれを誰かとシェアして食べるイメージは湧きにくいのではないですか。

○事務局 パーティーからソロキャンプまでみたいな幅を持たせるというか……。

○委員 そうね、ソロキャンプメニューというのも1個入れておくということですね。

○議長 ソロキャンプにも、ちょっとおいしいものがあつたほうが……。

- 委員 ソロキャンプは、ちょっと気持ちが離れます。
- 委員 ソロキャンプを奨励しているようなイメージがちょっと出てきてしまう。
- 議長 そういうニュアンスではないんですけどもね。
- 委員 でも、それが書いてあると、ちょっと……。
- 委員 だから私も、一人鍋と言うと、一人鍋に興味がない方は来なくなったりしそうな気がして、何かと、何と言うのかな。
- 委員 目的は、みんなで食べるパーティーのときに、みんなでわいわい騒ぎましょうということがいいですよ。そのために自分で料理の力をつけるのだから。でも、それは家庭の人たちではなくてシングルの人たちが集まってパーティーをするときに……。
- 議長 そういうのを文章……。
- 委員 だって、だから、一人鍋を楽しみたいからではなくって、みんなで集まって食事を楽しむために……。
- 事務局 別に一人鍋を推しているわけではないのですが、ただ、シングルでということだと、なかなか表現が難しいので、もしシングルを中心に行くと言うと、一人鍋ということだけの話なんですね。でも、そうではないよ、もう混ぜこぜで、いろいろな人たちが、ミドル世代の人だったらいいよということであれば……。
- 委員 そのワードはないよ。
- 事務局 はい、ということなのですね。
- 委員 すみません、基本のキで質問してよろしいですか。ミドル世代って夫婦でもミドル世代と言いますよね。
- 事務局 年代ですから、はい。
- 委員 ですよ。だからシングルだけではなくて、ミドル世代と言ったら夫婦もミドル世代ですよ。だから、もしこれを見た御夫婦で参加される方も当然出てくると。
- 事務局 そうですね。だから、お子さんはいないですが、御夫婦の方たちもたくさんいらっしゃると思うんですね。
- 議長 委員、先ほど、いろいろな企画をすると、結構、シングルの方たちも集まってきた、というお話をしてくださいましたよね。そういう方々にもこうした料理の会に関心を持ってもらうためには、どういうフレーズであれば響きそうですか。
- 委員 さっきの話で言いたかったことは、そういうつながりを求めている人はいるのだなということだと思ったのですが、PTAやおやじの会は、子どもがいて、それを起点にしてつながって、盛り上がって、いろいろなイベントをやったりというものをさんざん見

てきましたが、そうでない人たちにも、そういうことを一緒にやってみたい、一緒にやっていききたいという人たちはいるのだなと思ったということが言いたくて、シングルって、その料理とか、それはそれぞれだと思うので、その人の趣味、嗜好のそれぞれだと思うので、何が「刺さる」のかは、うーん、その人によるかなと思うんです。

ただ、今回僕が参加した団体で言うと、みんなで何かをやって、それでみんなで酒を飲んで盛り上がるのが好きという、そのためにイベントをやっているというような、そのイベント自体も、その大義があるというか、やる意義があるというようなことを感じて、それでみんなでやった、よかったねと言って酒を飲むのが好きみたいな、そういう意味ではみんな「刺さる」と思うんですが、料理がどうかと言われて、それは趣味によるかなという気がするので、みんな「刺さる」かは……。

○議長 蓋を開けたら、参加希望者が全然いなかったということもあるでしょうけれど。

○事務局 それで、また振り返りをしたいんですね。

○議長 狙いどおりにいかなくても。

○事務局 はい、では、なぜ集まらなかったのか、あるいはなぜ応募以上の人数が集まったのかも含めて、分析のようなことはしていきたいとは思っていますね。

それには、数が多いか少ないかは別ですが、集まった方たちからも、インタビューはなかなか難しいと思うので、アンケート形式でいろいろ聞いてみたいという気はしますね。

○議長 それから、委員が言われたけれども、どこでどうやって告知をするかは、とても重要で、仮に、うまくいかなかったとしても、それも一つの成果になりそうですよね。

○委員 これの申込みは2次元コードを使ってやるということですよ。

○事務局 そうです。

○委員 基本的には掲示板に貼るとかですか。

○事務局 多分、掲示板とかは、あまりやっても意味ないような気がしますね。高齢の方はよく見ているみたいですが、30代から50代ぐらいのばりばり働いている方たちは、自分の住んでいるエリアに掲示板があるとかいうことすら、もしかしたら、関心がないと言ったら怒られてしまうかもしれないですが。それよりは区のSNS系で情報発信したほうが、まだ有益かなという気はしますが……。

○委員 もし仮に私がこれに参加するとなると、1人では行きにくいかなという感じがするんですね。それで友達を誘って行こうよというようにすると行きやすく、それが多分、仮に友人だったら、班を替えて、違うグループになって料理しようとなったら、こうなるかなと思って、1人で行くのは結構抵抗を感じるかなと思ってしまいました。

- 議長 委員の先ほどのお話は、そもそもそういう人たちとはどこで知り合ったのですか。
- 委員 そのイベントです。
- 議長 イベントで知り合って、イベントをする側になった、と。
- 委員 「こういうイベントがあるから手伝ってくれない？」みたいな。
- 委員 では、きっかけは、1人でそこに参加したということなんですか、友達同士でやってみようと……。
- 委員 1人。
- 委員 1人で参加して、それで仲間ができた。そのきっかけがすごいな。
- 委員 僕は思ったのは、繰り返しになるのですが、いや、そういうつながりを求めているんだなと思ったんです。「自分は1人が気楽だから、いいんだ」という人もいると思うのですが、そうでない、そういうつながりを求めている人も、ああ、こんなにいるんだという印象でしたね。
- 議長 では、今回のイベントが一つのきっかけになればいいということでしょうか。
- 委員 そうですね、そう、そう。
- 事務局 ただ、今、先生が言われたように、なるべく敷居のハードルは下げたいんですね。では、その何が高くしているのか、どういうところが高くしているのかというところなんですね。いや、金額なのかとか、それから、人と一緒に混じって何かをやらされるのかなど。
- 委員 結構30代、40代の方は、1人になってほっとかれてしまうとか、なかなか初対面の人に気を遣うというところになるのではないかと感じてしまうんですね。
- 事務局 分かりました。今日いただいた案をどこまでできるか分かりませんが……。
- 委員 普通に、みんなで交流をしましょうみたいな文章があってもいいのかもしれないですけどもね。一瞬すごく硬いかなというイメージもあったりして、みんなでぎっくばらんに、気軽に交流しましょうなんてあってもいいかもしれないかななんて思っていました……。
- 事務局 いかがでしょうか。
- 議長 委員のお話を伺っていると、そういう言葉はそもそも嫌なんですよ。
- 委員 はい。
- 委員 何ですか。
- 委員 僕もそう思いますね。それが前面に来ると面倒くさい……。
- 委員 知らない人と交流したいという気持ちはないです。

- 委員 面倒くさいというか。
- 委員 面倒くさい。
- 議長 そうなんですね。
- 委員 ああ、そういうふうに捉える人も……。
- 事務局 なので、さっきも言ったように、私、ビールのところでもお話ししたのですが、ビールと交流ありとしたのですが……。
- 委員 では、これに参加される方は、交流はもう求めているんですよね。
- 事務局 いや、そういうことじゃないんです。
- 委員 そうじゃない。
- 事務局 交流ありと最初から前提で出すと、若い職員から、だったら行かないのでは無いのと言われて……。
- 委員 交流したい人たちが集まるんだぞになってしまうから。
- 事務局 ただ、プログラムとしては入れていきます。
- 委員 気を遣ってしまうんですよ。
- 事務局 交流は入れていきます。ただ、そういう表現を前面に最初から出さないほうがよいのではないかと。
- 委員 料理を作ったら、気がついたら交流しているんですよ。
- 委員 あっ、そうです、そうです。
- 委員 ああ、そっちのほうなんですね。
- 委員 という感じですよ。
- 議長 うっとうしくない方がいいんですよ。
- 委員 そうです。
- 委員 それで集中してやっていたら仲よくなって、「それ頼むね」とか、「これ作ってね」とか、「あっ、交換しようか」とか……。
- 委員 はい、「お湯沸かしといて」とか……。
- 委員 そうなったら、すごく、ああ、仲よくなってるじゃんとなっている。
- 委員 そう、そう、「おいしかったね」なんて。
- 事務局 ただ、グループで作らせたり、グループで試飲とか試食をしたりするんですが、そういうことは前面には出さないほうが集まりやすいのではないかと、ハードルとしては低くなるのではないかと。
- 議長 おいしいものを食べれば自然に「おいしいね」とお互いが笑顔になってくる、自

然な交流というか、ちょっとした会話が生まれて・・・みたいのは狙っているわけですね。

○委員 私は、委員からの、交流したい方がそういうきっかけで集まったというような話を受けたので、そのように思ったのですが、なるほどね、交流したい方も集まるきっかけもあるし……。

○委員 交流に積極的な人と、積極的ではない人は……。

○委員 います、います。だから、交流したい方が集まるというのも手かなとも思ったんですよ。でも、これは意図的に初めからは、それは出さないということですよ、自然になるというような方向なんですね。

○委員 交流したい人は、ほっといても交流するので、問題はそうではないと。

○委員 でも、それはきっかけがないと交流できないですよ。

○委員 なので、きっかけをつくって、そんなことは思っていなかったけれども、行ったら楽しかったと。

○委員 ああ、そっちですね。

○委員 おやじの会もそうですが、やらされるとなると引いてしまうんですよ。でも、自らやるのは全然、最初はある程度嫌がっていたのに、すごく一生懸命やっているじゃんというやつはいっぱいいるんだけど、最初から、こういうことで負荷がかかるよとか、こういうことをやってねとか言われると、面倒くさいになっちゃうんですよ。

○議長 最初は、嫌なんですよ。でも、行ってみたら、楽しくなったら、自分でもやってみたい、となるようなアプローチを考えていくということですね。難しいでしょうが、それが教育委員会の「新しい」試みですから……。

○事務局 とはいっても、場合によっては、先ほど課長も言ったように、いろいろなジェンダーのことも考えていかなければいけないとか、それから、議会などで突っ込まれるようなことはなかなかできないところもあつたりしますので、どんな表現でも、しっかり答えられる、説明できるようなものにしていくということは大前提になっていくのかなと。だからこそ区役所というところもあるのですが、今回はそれがデメリットでもあるかもしれないのですが、どこまでできるかは、ちょっとまた考えてみますので、なるべく今出たような御意見を参考にしながらつくっていきたくたいと。

そして、もう一つ余力があれば、大体30代から50代ぐらいの方たちが「刺さる」ようなスポット巡りのようなことを、ただ、集団ではなかなか難しいという御意見もいただいたので、何とかそういうところも考えることができるとは思っておりますので、何とか今

月中にはアイデアを固めたいなと思っておりますので、御協力いただけると助かります。
よろしく申し上げます。

○議長 今日のところは、こんなところでよろしいですか。

○事務局 はい。

○議長 これまで、いわば役所的な企画はたくさんやってきたわけですから、今回は、そうではない、新しいことに勇気を持ってチャレンジしていただきたい、それがまた次に生きていくのではないのか、というお話は、私からもしております。

お時間になりましたね。次はいつでしたか。

○事務局 次回7回目は、この企画と思っています。ですから、早ければ、12月にできれば、遅ければ、さっきも言ったように1月……。

○議長 そこでは、実施報告がされるのですが、それとも……。

○事務局 この実際の企画を皆さんに見ていただくというのは7回目にしようかと思っています。それとは別に、8回目は最後の回になるのですが、2月から3月ぐらい、年度内にできればいいなとは思っています。

○議長 実際に行っているところを見るのですか。

○事務局 はい。

○委員 私たちも班でお料理をやりませんか。

○委員 参加できるということですか。

○事務局 オブザーバーなのか、参加者になるのかということは、場合によっては応募状況によってというところもあるかもしれないですけども、はい。仮に20名のところを40名、50名来て、皆さんが入って約10名で、10名を落としてしまうということになってしまうともったいないので、その場合は、皆さんはオブザーバーで見させていただく形にはなるかもしれないですね。また、逆に少ないということになると、入っていただく可能性もあるかもしれませんが、応募状況によってと。

○議長 応募状況等によって、すべてのご希望に添えるかどうかは分かりませんが、参加できるそうです。

では、本日はこれにて終了させていただきます。ありがとうございました。

午後8時25分閉会